

復興支援フォーラムニュース No. 91

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)
=====

第88回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

第88回ふくしま復興支援フォーラムを、2015年3月26日に開催しました。

田中正敏氏（福島県立医大名誉教授）から、「原発事故と予防衛生」について報告がなされました。20名の方々に、参加いただきました。

会場で、文書提出されたご意見などは、以下の通りです。

~~~~~

★ 原発事故に起因する避難者の健康管理の実態と今後の対応のあり方など、外国の事例をふまえてのご報告があり、あらためて避難高齢者への対応のあり方を見返すことの重要性が認識できました。（K.F）

★ “地域をつくりながら人を生かす”という課題が、ますます重要になるなあという認識をもてました。（S.M）

★ お世話になりました。100回といわず、200回、300回と続くことを祈っています。（N.I）

★ 今後も宜しくお願いします。（F.M）

★ 「これから」のことについて、もう少し深めていきたいと思いました。（Y.I）

★ 広範囲な内容を、分かり易くまとめて語られておられ、原発事故後の未解決な課題の広さと、仮設住宅等を含む問題の深さを実感する時間となりました。（H.S）

★ 震災関連死や、仮設住宅からの退去等、難しい問題が山積みですが、自分にできることを考えて、取り組んでいきます。（H.S）

★ 先生が医学者（公衆衛生）であり、かつ建築士であるということから、総合的な話を聴くことができました。避難直後の困難だけでなく、4年も過ぎた現在、医療体制も含め、より総合的な支援が必要だと感じました。震災後3年を過ぎての死亡も、関連死と認定されていることの過酷な避難生活に対する対応の必要を感じます。避難先に自宅を建築する人も少ないので、仮設住宅での空きが目立って、孤独死も聞きます。コミュニティの新たな崩壊を感じます。仮設だけでなく、借上げ住宅の方は、より一層なのかもしれません。総合的な対応の緊急性を痛感しました。（T.K）

平成27年4月8日(水)

(ふくしま復興支援フォーラム講演要旨)

## よりそいホットライン1千400万件のアクセス分析が示す被災地の今と日本の今

一般社団法人社会的包摂サポートセンター

代表理事 熊坂 義裕

「よりそいホットライン」を始めてから、ずっと感じていることは、「知らなかったことばかりだ」ということである。医師として37年のキャリアを積み、市長を3期12年務め、大学の教壇にも立ち、還暦も過ぎて、それなりに世の中を知っている積りでいたが、恥ずかしながら「見えていなかった」ことばかりであった。今そのことを率直に反省している。

ホットラインにかけてこられる皆さんは、家族がいても孤立し、障害や病気に悩み、仕事がなく、家族の不和や暴力に直面し、生きる力すら奪われている方が多い。そういう状況におかれた方は「少ない」のだと、無意識に考えていたように思う。しかし、現実は違っていた。私に見えていた風いだ水面の下には、嵐が吹き荒れていたのだ。

ホットラインには連日万単位の電話が寄せられており、平成25年度のアクセス件数は1400万件を超えた。相談表として纏められた一つ一つの事例を読み込んでいくと、相談者がおかれている過酷な状況が見えてくる。少子・高齢社会の歪、自殺率の高さ、非正規労働者の増加、貧困と格差、たくさんの情報は流れてくるが、今の日本社会の現実には数字や報道だけでは語れない。一人一人の「生き辛さ」を見つめ、その中から明日の日本の社会を「立て直す」構想を作りださなければならない。「よりそいホットライン」の運営責任者としてそれが自分の使命になったと感じている。

そういう想いで、国への報告書には、相談者のご理解を得て支援につながった皆さんのインタビューを掲載させていただいている。事実があって、初めて社会を動かすことができる。「現実を可視化する」ことにご協力くださった相談者の皆様に心から感謝申し上げたい。

インタビューを踏まえて、相談内容分析検討委員会（委員長：戒能民江お茶の水女子大名誉教授）の皆さんには、日本社会に求められるシステムや制度への展望も含めて「よりそいホットライン」の報告書を執筆いただいた。日本を代表する第一線の研究者の皆さんの素晴らしい分析と提言は正に我々へのエールだと感じる。これを励みとして、今後も事業に邁進していきたいと思う。

もう一つよりそいホットラインの事業の中で気付かされたのは、社会的排除に直面した人々の状況は、排除に至る背景は違っても共通だということである。セクシュアルマイノリティ（因みに「よりそいホットライン」が日本初の国の補助金での相談事業となった）や外国人（ポルトガル語やタガログ語など8カ国語に対応）の方からの相談、DV・性暴力被害や自殺念慮、生活困窮の方からの相談、これらの相談のほとんど全てに共通しているのは、自尊心と「生活する力」を奪われ、社会から「見えないもの」として扱われ、時には周囲からの攻撃にさらされることすらあることである。東日本大震災の被災者からの相談も実は同様である。

今の日本社会は、何らかの理由で排除に直面した人々にとってやり直しのきく優しい社会ではないことを直視し、せめて「よりそいホットライン」を運営する私たちは優しくあり続けたいと思う。24時間、どんな相談も真摯に受け続けるシステムを制度化することで、日本社会を「優しい社会とする」決意を示さなければならないのだ。

「よりそいホットライン」も本年度5年目を迎えることになった。厚生労働省、復興庁を始め関係所管の皆様、関係する団体・個人の皆様、連日の鳴り止まない電話に対応し、時には緊急対応にも従事する全国の2千5百人の職員・相談員の皆さん、いつも温かいアドバイスを頂いている運営委員会、相談内容相談分析検討委員会、効果測定第三者委員会（委員長：本間博彰宮城県こども総合センター所長）の皆さん、そして応援して下さいの全国の全ての皆さんに感謝の気持ちを伝えたい。特に深刻な状況が続く福島の支援者の皆さんにはこの場をお借りして改めて御礼申し上げたい。

社会的排除は誰にでも起こりうる。その想像力を蓄えなければならない。辛い立場の隣人は正に明日の自分なのだから。

~~~~~  
【予告】第90回フォーラム 2015年4月23日（木）18:30～20:30

「双葉郡の小中学校の『ふるさと創造学』—避難校に広がる総合学習の試み」

報告者：中村 秀夫 氏（ジャーナリスト）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1

~~~~~  
【予告】第91回フォーラム 2015年5月14日（木）18:30～20:30

「生協組合員（住民）目線での被ばく調査について」

報告者：野中 俊吉 氏（生活協同組合コープふくしま専務理事）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」視聴覚室

~~~~~  
【予告】第92回フォーラム 2015年5月28日（木）18:30～20:30

「県内商工業の復興の現状と課題 ～営業損害賠償問題にも触れて～」

報告者：佐藤 敏文 氏（福島県商工会連合会広域指導課長）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1

~~~~~  
【予告】第93回フォーラム 2015年6月11日（木）18:30～20:30

「原発事故被災地における復興まちづくり計画」

報告者：間野 博 氏（県立広島大学名誉教授

・うつくしまふくしま未来支援センター特任研究員／都市計画）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1

~~~~~  
【予告】第94回フォーラム 2015年6月25日（木）18:30～20:30

「県内水産業の現状と課題」

報告者：遠藤 和則 氏（相馬双葉漁業協同組合総務部長）

会 場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ（アオウゼ）」大活動室1
~~~~~